

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「無銘の清刀」

テーマ：「神体である刀には戻りたくない美少女」

キャラクター

70

ストーリー

67

テーマ(設定)

72

文章力

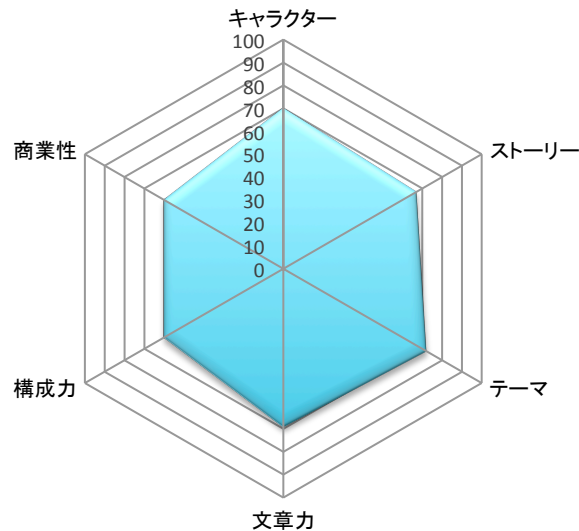
69

構成力

60

商業性

60



・細かい点

○ 日本刀が主軸に置かれた繊細で美しい世界観を、文章に留まらず文体から表現できている点は非常に好評価。+2

△ ヒロインである気枯に関して、白肌と黒髪以外に情報が少なく読者が想像することが若干難しくなっている。例えば着ていた着物はどのような柄であるといったことや、どのような声なのかということや、どの程度の背丈なのかということなど。ファンサービスをこめるならば誰かに「貧乳」と言わせて、気枯「うるさい！黙れ！」的なお約束事を言わせれば、ラノベ的な面白さや単なる人物描写に留まらず気枯の性格を描くこともできる。(やりすぎると折角築いた世界観の美しさが汚れるが、少しだけなら逆に小説の娯楽性を高めるスパイスにはなると思われる)

△ 天国と気枯が鬼狩りに向かってからの駆け足度合いが少し早い。「それから一日かけて、二人で旅支度を整えた。」など、クライマックスにしては素っ気がない。とはいえ洞窟にたどり着くまでを長く描かれても読者は退屈であるため、例えば序破急の構造の中で更に段落を分けを行い時間経過を演出すれば自然な物語の流れを作ることができたかもしれない。

・総評

会話の中で生まれる小さな心情の揺れ動きを描写する力に長けているように感じる。「不味くはないか?」「美味いさ」などの些細なやり取りを通じ、その時点における人間同士(人と神?)の関係性を描写するのが巧み。ただこの手の作品が好きな人からは支持を得られそうという側面ももつ一方でかなり読者を選ぶ作品のテイストにはなってしまうため、売れるか売れないかという商業的な面からみると多少厳しい。また50枚という制限の中で、少し設定を作りすぎてしまった感は否めない。世界観の設定が本当に世界の設定から始まっており(龍脈、鬼、刀の呪い等)、50枚内の枠組みでストーリーを簡潔に示すには少し重いように感じる。逆にこの設定量のまま長編を書き上げれば丁度読み易い設定濃度となると考えられる。是非この設定で長編を描き、今作だけでは描ききれなかった天国と気枯の日常的なやり取り、竜頭との確執などを書いて欲しい。傑作となる可能性がある。

合計加点ポイント：2

総得点： 398 / 600

B方式総合得点： 26601 点